

私たちの活動を紹介します

鳥取市

ひな 雛がたり実行委員会

<代表> ^{やおたにかずこ}八百谷和子さん

<設立>平成10年

<メンバー>5名

<活動内容>朗読会の開催

<問合せ先>八百谷 和子

電話：090-1683-6340



朗読会「雛がたり」のステージ

ひな祭エッセイの朗読会「雛がたり」

平成14年国民文化祭で朗読ステージに参加して以来、毎年旧暦3月3日に、県の内外でお雛様やひな祭に関するエッセイの朗読会「雛がたり」を継続してきました。

活動の大きな目的は3つあります。まずは、朗読文化の普及。次に、朗読技術の次世代への継承。そして、雛文化の継承です。グローバル社会では、その国独自の文化の継承が課題なのです。

日本語で「語る」ことへの思い

日本語は母音が全ての発音に含まれる世界的に希少な言語です。AIによる人工音声に耳にする機会が増えた今だからこそ、生きた日本語の音声化技術を次世代に伝えたいと考えています。言葉を声で伝えるときに、語り手の人生経験によって言葉にリアリティが生まれ、情景や筆者の想いが聴き手に伝わります。朗読を聴いていただき、時間や場所を超えて、作品の世界にご案内します。

雛文化を次世代へ繋ぎたい

「お雛さまコンクール」を開催した時に国内外から1万通を超える作品が寄せられました。鳥取大火の後、泥の中から拾い上げたお雛様。戦争中に食べ



美しい庭園を愛でる聴衆に朗読する八百谷さん

るものが無い中、小豆ご飯を炊いてお雛様をお嫁さんに見立ててお祝いをしてもらったのち出征された特攻隊の先輩。3歳の時にお母さんが亡くなり、毎年お兄さんが手作りの雛あられを作って雛祭りのお祝いをしてくれた思い出。双子を早産し、売店で買ってきた折り紙でお雛様を作り保育器に入れ、無事育つことを祈った若いお母さん。時代がどんなに変わっても、お雛様は、子どもが無事に育て欲しいという願い、大切に育ててくれた家族の思い出に繋がっています。家族の子どもに対する愛情が込められているのが雛人形や雛文化なのです。

「久しぶりに亡くなったお母さんのことを思い出しました」「長年お雛様をしまい込んでいたけど、今年はお出します！」朗読会でそんなお声をいただくと心から嬉しく思います。

雛文化を次世代へ繋ぐお役に立つことができれば幸いですし、今後は機会をとらえて、国外でも朗読会「雛がたり」や、四季それぞれの朗読会を開催したいと夢見ています。美しい日本語の響きや日本人の愛の心を、日本が大好きな世界中の方達にお届けできると最高です。

一緒に活動してくれるメンバーを募集中

朗読は、作品があれば身体一つでできます。人生経験を活かすこともでき、発声することで心肺機能の強化に繋がり、人との出会いは喜びに繋がります。朗読の経験は問いません。ぜひ一緒に朗読活動を始めませんか？

令和6年の旧暦3月3日は、4月11日（木）です。午前10時30分から鳥取市用瀬町流しびなの館で朗読会「雛がたり」を開催します。ぜひステージをご覧ください、これから一緒に朗読を楽しみましょう。